

デイリー・ジーザス・ニュース #240

イエスのエルサレムへの最後の旅

イエスがベタニアに到着する

ヨハネ11:55-12:1, 9-11

55 ユダヤ人の過越祭の時期が近づくと、多くの人が過越祭の前に清めの儀式を行うために地方からエルサレムへ上って来ました。

56 彼らはイエスを捜し続け、神殿の境内に立って、互いに言った。「あなたたちはどう思うか。彼が祭りに来るはずがないと思う。」

57 というのは、祭司長たちやパリサイ人たちは、イエスの居場所を知った者はだれでも彼らに知らせるように、イエスを捕らえるために、あらかじめ命令を出していたからである。

12.1 過越祭の六日前に、イエスはベタニアに来られました。そこには、イエスが死者の中からよみがえらせたラザロがいました。9 大勢のユダヤ人がイエスがそこにいることを知って、イエスのためだけではなく、イエスが死者の中からよみがえらせたラザロを見るためにも集まってきました。

10 そこで、祭司長たちもラザロを殺そうと相談した。11 ラザロのせいで、多くのユダヤ人がイエスのもとに来て、イエスを信じるようになったからである。

=====

注: 私たちは「混合テキスト」の原典福音書を次のように上付き文字で識別します: マタイ = ^{MT}、マーク = ^M、ルカ = ^L、ヨハネ = ^J、使徒行伝 = ^A。この「上付きID」は引用文の冒頭に挿入され、別の上付き文字が現れるまでその聖書書を識別します。さらに、**赤いイタリック体はイエスの言葉を示します**。旧約聖書の引用は大文字で書かれています。

コンテキストダイジェスト

位置	エルサレム郊外のベタニア
タイムライン	4月上旬 (39ヶ月目)
イエスの生涯の文脈	第7段階：ペレアにおけるイエスの宣教
	C. イエスのエルサレムへの最後の旅
タイトル	18. イエスがベタニアに到着する

コメント：

今日の朗読で、イエスの生涯の物語はついにクライマックスを迎えました。イエスはエルサレムとオリーブ山のすぐ外、ベタニアに到着し、枝の主日にエルサレムに入城し、自らがメシアであると正式に宣言する準

デイリー・ジーザス・ニュース #240

備を整えました。永遠の昔から、すべての被造物は、来たる週に起こる出来事へと向かって動いていました。イエスのエルサレムへの最後の旅は、こうして終わりを迎えたのです。

イエスは、三位一体の神の予知と定めにおいて、**「世界の墓が置かれる前から屠られた子羊」**でした。アダムの墮落、すなわち人類に罪が入り込んだ時、神は蛇の姿をとってサタンにこう言われました。**「わたしは、お前と女との間に、お前の子孫と女の子孫との間に敵意を置く。彼はお前の頭を砕き、お前は彼のかかとを砕くであろう。」**創世記3章15節

男ではなく女の約束の子であるイエスが、死を通してサタンを決定的に、そして永遠に打ち砕き、その死において罪に打たれる時が来た。神はエデンの園でアダムとエバの罪を赦した後、動物を殺してその皮を着せた。その動物の流された血は、イエスの血による新しい契約を予見するものであった。それは、神の罪のない完全な御子の完全な義によって、私たちの不義を永遠に覆うものであった。

は生まれる前から**「神は救い主」**を意味する名前を与えられていた。なぜなら、イエスはこれから成し遂げる死によって、民を罪から救う方だからである。洗礼者ヨハネは、イエスをイザヤ書(第53章)の**「世の罪を取り除く神の子羊」**としてイスラエルに適切に紹介した。過越祭のわずか6日前、そして十字架刑の1週間前にイエスがベタニアに到着した今、イエスに関するすべての聖書に記されている通り、私たちの犠牲の子羊として命を捧げることで、永遠の召命と使命を果たすための、まさに完璧な時が来たのである。

今日の朗読は240番目です。DAILY JESUS NEWSでは、イエスの生涯を年代順に網羅する365の朗読箇所を約3分の2ほど読み終えました。福音書記者たちが、その内容(残りの朗読箇所)の3分の1以上をイエスの死と復活(イエスの生涯のわずか1週間)に捧げているという事実は、イエスの人格と働きを理解する上で、この出来事がいかに重要であるかを物語っています。イエスの生涯におけるその他のすべての出来事は、受難週の出来事において成就し、最高潮に達しました。

ヨハネがイエスのベタニア到着について記している箇所を読むと、当時の空気に漂っていた緊張感を垣間見ることができます。イエスは死刑を宣告され、賞金がかけてられました。ユダヤ人は皆、イエスを見かけたら当局に通報するよう命じられていました。イエスは、全く不当な理由で指名手配されてきました。指導者たちはイエスに対する強い反感を抱き、ラザロの暗殺も計画しました。ラザロはイエスがメシアであることの生きた証拠だったからです。

対照的に、庶民はイエスとラザロを見るためにベタニアに押し寄せ、ラザロの復活という証拠に基づいてイエスを信じる者も増えました。弟子たちにとって、それは最良の時であり、最悪の時でもありました。

復活したラザロの衝撃と、指導者たちによるイエスへの死刑宣告は、エルサレムの街全体、そしてその年の過越祭のためにこの街にやって来た何千人もの巡礼者たちを大騒ぎにさせました。枝の主日(パームサンデー)にイエスがエルサレムに入城したことが、街全体を揺るがしたのも無理はありません。こうして「善き羊飼い」が神の子羊として犠牲にされる舞台が整えられたのです。

応用：

デイリー・ジーザス・ニュース #240

神のタイミングは常に完璧です。神は永遠の時間をかけて御子が受肉して地上に来られるために創造物を準備し、そしてイエスの地上での生涯全体を、これから起こることへの準備として用いられました。神は、ご自身の善良で完全な御心を計画する際に決して間違いを犯すことはなく、御子の命でさえも、その御心を実現するために惜しみない犠牲を払います。神は愛であり、それゆえに、神の言葉と行いのすべては善なのです。

これはイエスの生涯、死、そして復活においても真実であり、あなたの人生においても真実です。

イエスは、父の御心を行うことによって目の前に与えられた喜びゆえに、十字架を受け入れました。それが、受難週の苦しみを乗り越える力となったのです。

たとえあなたが個人的に神の意志が自分の意志ともっと一致することを望むとしても、聖書に書かれているあなたに対する神の意志の善良さと完全さをどのように受け入れる必要があるでしょうか。

今日は、自分の意志のどの部分をイエスに明け渡す必要がありますか？

あなたに対する神の御心の善良さと完全さを信じているからこそ、喜びと感謝をもってそうすることができるように祈ってください。